

令和4年度 学校評価 自己評価書(一覧)

評価基準 A—80%以上(良い) B—60~80%未満(まあまあ良い) C—40~60%未満(あまり良くない) D—40%未満(良くない)

園学校名 認定こども園安田さくら園

経営理念	〈目指す園の姿〉 ・子どもにとって楽しいと感じる園 ・保護者にとって子育ての拠りどころとなる園 ・子供の成長のために職員が協同する園 〈目指す子ども像〉 ・意欲をもって行動する子ども ・豊かな心を持った子ども ・健康でたくましい子ども(基本的な生活習慣を身につけた子)
------	---

項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
知	○主体的に様々な環境に好奇心や探求心を持ちかかわる力の育成	○子供の主体的な遊びを保障する教育・保育の実施 ・育ちにに応じた遊具や用具・素材について工夫を行い、活動を豊かにする ・ねらいに基いた子どもの姿、その理解に視点をのいた記録を取り週日案等の改善を行う ・子どもの特性や育ちにに応じた指導法の工夫をする ○自己課題に積極的に取り組み、職員の資質向上を図る ・園内研修を計画的に行い、子どものより良い育ちにつなげる ・自己課題をもって研修に参加し、学びを職員間で共有する	・昨年に続き、保育環境について理解を深めていけるよう取り組んできた。身近な環境に関わり、発見を楽しんだり、考えたり遊びや生活に取り入れることができるよう、子どもの実態や育ちに依りて工夫していく中で子どもが関わろうとする姿に繋がっている。しかし、興味を示さない、遊びが続かないなどの課題も残っている。又、手作りおもちゃの研究や製作が不十分であった。 ・日々の記録については、視点を作ったことで子ども理解や明日の保育に繋がっている ・園内研修は、年度当初より計画を立て1〜5歳児クラスで実施する。保育を見る際どのような視点で見るか乳児・幼児で統一したことで子どもの姿、育ち、必要な援助、環境への理解が深まった。更に発達を見通した保育に繋がっていきたい。 ・各研修に参加し学びを職員間で共有する機会をもてた。	B	・職員会を定期的に行い育ちと時期に応じた教材を考え、発達に合った手作りおもちゃの研究、製作に取り組む。 ・週案については、日々の評価、反省でなくその都度加筆を行うことで育ちに依りた援助や環境構成に繋がっていく。 ・子ども理解を深め、子どもの様子を見ながら環境の再構成を行っていく。 ・自己課題の為の研修を受け、学びを共有する場を設ける。	・個々の児童の実態に応じて多様な取組を計画的に実施できており、職員間での学びの共有と職員研修に努めていることがわかった。 ・日々の職務の中で、子どもたちの成長を見守り、寄り添いかわりながら取り組んでいただいていることに感謝したい。	B
	○話を聞く力と言葉で表現する力の育成	○聞く力をつける ・話を聞くことに関わる様々な体験を積み重ねる ○自分の思いや考えを言葉で表現する楽しさが味わえるように年齢に応じた言葉の発達を促す取り組みを実施する ○絵本好きの子供にする取り組み ・絵本に関する知識を得たり技術を高めたりする(年齢・育ち・季節に合った絵本) ・絵本の貸し出しを通して保護者に親子読書の大切さを伝える(家庭での読み聞かせの習慣化につながるような働きかけ)	・昨年より、各年齢の聞く話すの取り組みを作成しクラスの実態把握や一年を通してどのような関わりが必要なのか意識して取り組んでいる。話を聞くことができるように環境を整える事で興味をもって聞こうとする姿につながっているが、最後まで聞けない自分の思いを表現することの難しさや語彙の少なさなどが課題となっている。 ・毎日の読み聞かせでは物語の世界を楽しんだり想像を広げたりできるよう季節や年齢に合った絵本を選び、又、子どもが自由に絵本を見える環境を整えたことで、絵本好きの子どもは増えている。コロナ禍の為、親子での絵本の貸し出しができなかったこともあり、保護者への発信も少なくなっていた。	B	・年齢に応じた言葉を引き出せるような関わりやことばの発達を促す取り組みを引き続き行っていく。 ・絵本の良さや面白さ、読み聞かせの大切さをおたよりで各家庭に知らせしていく。読み聞かせで育まれるものを保護者に伝える力をつけていく。貸し出しの仕方を見直し、保護者に関心を持ってもらえるよう改善していく。	・0歳児から5歳児までは、心身の発達が形成される重要な時期であるため、子どもの生活や遊び等にしっかりと寄り添った積極的な取組を継続していただきたい。 ・絵本好きの子どもが増えているとのことなので、ゲームのボタンで画面が変わるスリル感よりも、ページをめくるワクワク感を味わえるように、読み聞かせを通して伝え続けていただきたい。また、幼児期の読み聞かせの大切さを継続して保護者に働きかけていただきたい。	B
徳	○豊かな心と人と関わる力の育成	○豊かな心身の育成 ・様々な環境との関わりの中で心を動かされる体験ができるようにする ○道徳性の基礎の育成 ・人との様々な関わりを通して、自尊感情・自己抑制・集団における規範意識の育成 ・一人一人が集団の中で認められ良さが特性が生かされるクラス作りをする	・自然体験や様々な人との関わりが制限されたが、できる形で取り入れ実践する。 ・応答的に関わることを意識し、愛着関係を築く事を大事にしている。自分の思いを言葉や仕草で表現したり相手に伝わる嬉しさを感じられるよう子どもの思いを受け止めたり、認めたり、保育者が見本となり子ども一人一人の良さを言葉にしていくことで子ども同士良さを認めあつたりする姿に繋がっている。新たに自尊感情を育むための取り組みを作成し、各年齢でどのような関わりが必要なのか意識して取り組むことができた。	B	・子どもの姿を肯定的に捉え自己発揮できるように取り組んでいく。 ・友達の良い所を全体で知らせたり、認めたりしていけるようなクラス作りをしていく。 ・家庭との連携を図りながら、同じ方向性で子どもへの関わりができるよう取り組んでいく。又、保護者に伝える力をつける。	・子ども達に寄り添いながら、保育者自身が手本となり、乳幼児の自己形成や集団のコミュニケーション力の形成を助ける日々の取組に努めている。 ・社会状況の変化に伴い、家庭や地域における子どもの生活環境も年々多様化していると思う。保育所では、乳幼児の人間形成と生きる力の基礎を培う時期であるため、子どもたちが生き生きと将来に向けて歩んでいくことができるように願っている。	A
体	○健康な心と体の育成	○基本的な生活習慣の定着 ・一人一人に応じて家庭と連携して基本的な生活習慣の定着に向けての取り組みやおたより、懇談等を通して定期的に働きかける ・アンケート調査を年間5回行い、結果や保護者からの返信等を知らせる	・生活調査を4回行う事で、子どもの実態を把握することができた。保護者からの返信や取り組みやすい内容をお便りで配布し家庭への働きかけを行っている。改善したいと意識して取り組む家庭もあるが、なかなか改善に結びつかない現状がある。継続して取り組んでいく必要がある。 ・幼児クラスは、生活リズムや生活習慣の大切さを伝え9時までに登園するよう働きかけ取り組んでいる。	B	・基本的な生活習慣が身につくように、それぞれの家庭の背景を見ながら個々に依りた改善方法を探っていく必要がある。引き続き、生活調査を定期的に行い意識付けを行い、クラス懇談会等を利用して発信していく。	・家庭と連携し、基本的な生活習慣の定着に向けて、今後も継続した取組と家庭への働きかけをしていただきたい。	B
		○健康な体作り一体を使った遊びが好きな子どもの育成 ・発達に応じた運動遊びや活動の計画と実施をする(多様な動きが経験できる遊びの充実) ・家庭でも取り組める情報を発信する ・食育の推進	・運動教室を行うことで多様な体の動きが経験でき、運動することが好きな子どもが増えてきている。しかし、日々の保育の中に取り入れた遊びの提供が少なかった。 ・絵本や紙芝居を通して季節の食べ物や、給食のメニューを話題にしたり、夏野菜を育て生長に興味をもち友達と食べる経験ができた。食事に関しては意欲的な子どもが多いが、偏食や咀嚼の弱い子どもの姿が気になる。	B	・発達段階を把握し、各年齢で身につけておきたい内容が経験できるよう色々な運動遊びを取り入れていく。 ・乳幼児期から発達段階に応じて豊かな食の体験を積み重ね、食への関心を育ていけるよう取り組みを見直していく	・発達に応じた多様な動きを取り入れた運動遊びの指導を専門機関と連携して実施したことで、子ども達が運動の楽しさを感じていることがわかった。 ・以前実施していたリトミックの再開を検討していただきたい。 ・偏食等に対して家庭への働きかけを行うとともに、食への興味関心をもたせていく取組の見直し等、力を尽くしている。	B
連携・協働	○就学前教育の充実	○特別支援教育の実施 ・個別の指導計画の作成や専門機関との連携を図り支援の充実を図る ・小学校との円滑な接続を行うために学びや発達を見通した保育を行う ・接続期カリキュラムについての理解を深める ○親育ち支援の充実 ・家庭支援の記録を取り、全職員で共有するとともに、子どもの育ちにとって必要な関わり方についての情報を提供する	・専門機関との連携を図りながら支援が必要な子どもの個別の指導計画を作成したり、その子に応じた支援方法を探り対応してきたことで少しずつではあるが変化が見られている。 ・園小の交流を行ったり、職員間で連携を図ることで理解が深まっていると感じる。見直しを持った保育を意識していくことで学びにつながるよう取り組んでいる。 ・家庭支援が必要な子どもについては、必要に応じて記録を取り、職員会で共有し具体的な支援方法を考え取り組んできたが、難しさを感じている。	B	・各専門機関でどのようなことをしているのか、書類では支援方法が把握しにくい所があるのでより良い支援につながるよう更に連携を深めていく。 ・保護者の困り感を捉えて少しでも解決できるよう情報を提供していく必要がある。	・職員の資質向上のための研修と職員間で学びの共有や連携を図ることに努めている。今後も自己研鑽を続けていただきたい。 ・15年間の子どもの育ちをつなぐことを意識し、園、小、中の教職員との連携、保護者との連携を図っていることがわかった。	A

	<p>○防災を中心とした安全教育、安全管理の充実</p>	<p>○あらゆる場面を想定しての避難訓練を実施する(災害発生時の個々の動き・園全体の動きを理解し、日頃より自己の役割を意識する) ○危機管理を理解し、安全に生活できる環境を工夫し、改善に努める ○月1回の施設の安全点検の実施をする</p>	<p>・予告をすることなく様々な時間帯で避難訓練を行った。その時々に応じて必要な対応の仕方を考えることができた。改善点については、クラスで出来ることは担任間で改善し、園全体で改善の必要があるものについては話し合い改善することができた。</p>	<p>B</p>	<p>・園全体の動きを理解し自分のクラスだけでなく他にも目を向けるなど自分の役割を意識して行動する。 ・色々な場面での訓練を行い、その都度評価反省を行い、より良い方策を考えていく。</p>	<p>・安全教育、安全管理の充実に向けて計画を行い、教職員間で共有、改善のための協議を重ねながら実施できている。 ・実際の場面を想定し、予告なく避難訓練を行っていることがよい。今後も安全教育の充実に向けて職員間で共通理解を図りながら取り組んでいきたい。</p>	<p>B</p>
--	------------------------------	---	---	----------	---	---	----------